

平成28年6月度 定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会

【概要】

実施日：平成28年6月11日（土）

天候：晴

担当班：6班

テーマ：身近にあった雅（みやび）の道に分け入る

見所：かつて須磨離宮であった敷地あるいはその周辺地域はいわゆる里山とはやや違った植生を観ることができます。やはり庶民が自由に入り木を伐採することができなかった地域だったのでしょうか。そのような思いをもってこのコースに分け入ってみましょう。これまでに見たことのない何かが見えてくることでしょう。

参加人員：ビジター39名、会員35名、合計74名

コース：山陽電鉄月見山駅～天井川～須磨の名水の森入口～天皇池～須磨の名水往復～須磨離宮公園～月見山駅

配布資料：ルートマップ 植生リスト

タイム： 9：30 月見山駅集合

9：45 須磨名水の森入口、受付、あいさつ、体操

10：00 出発

11：10 左股分岐

11：40 天皇の池

12：10 須磨の名水、堰堤広場で昼食

13：20 梅尾山からの尾根道に合流

14：40 須磨離宮公園

【観察記録】

集合場所の月見山駅は駅前が狭いので、順次スタッフが先導して出発地点の広場（須磨名水の森入口）へと移動した。ビジター参加者を4班に編成し、各班のガイドとアシスタント紹介、注意事項説明、準備体操、コースの趣旨説明を行い、班別に観察をスタートした。

◆須磨名水の森入口～左俣分岐

出発地点の広場は、天井川の西谷と東谷が合流する場所で、須磨名水の森への入口である。天井川の清流と森に囲まれ、街から歩いてくると急に緑が深くなったと感じる。観測データによれば真夏の気温は市街地と比べて5度以上低く、清涼感が漂う場所である。

出発してしばらくは溪流沿いの歩きやすい道で、足元の草本を中心とした観察である。花がやや少ない季節とはいえ、ヒメジョオン、ムラサキシキブなどの花が見られた。ユキノシタは5枚の花弁のうち下の2枚を長く垂らし、可憐な姿を披露してくれた。



昔はこのコースは行者が修行で訪れる程度の不気味な場所だったが、震災後地元の人々により子供でも歩けるように整備され歩きやすくなったのだという。市販の登山地図には出ていないので、まさに隠れた自然観察路、老若男女が楽しめる穴場コースだといえる。

登りに入ると、鹿の子供のような樹肌のカゴノキが目立つようになる。足元に見えない松かさを見つけた。北米原産のテーダマツで、球果は細長く、葉は3葉性（3本葉）で長い。

かなり年老いたフジが随所に見られ、かつて巻き付いていたであろう木の姿はなくフジのツルだけが残るものもある。



<観察できた植物>

キツネノボタン、オオバコ、ネズミモチ、ヒメジョオン、カゴノキ、ムクノキ、ニセアカシア、ムラサキシキブ、ヨシ、トウネズミモチ、スイバ、イヌビワ、ハゼノキ、ミヨウガ、ヤマブキ、ミズヒキ、アオキ、クサイチゴ、クサギ、キリ、ノブドウ、ユキノシタ、カゴノキ、フジ、テーダマツ、ヨシノアザミ 他

◆左俣分岐～天皇の池

左股と右股の出合には、山深い谷間に明るい砂地が現れた。

ここからは深山幽谷の雰囲気漂う。岩壁に沿った道なので気を引き締めて足を進める。

第6堰堤の上の広場は生物のオアシス。ヤブニッケイの葉の香りで一服する。

ここからは天皇の池を目指してシダ類の生い茂った谷間を登る。谷間を棲みかとするオオルリが美声を響かせていた。



<観察できた植物>

ハゼノキ、テイカカズラ、コナラ、ナガバジャノヒゲ、フジ、ヤママモ、ヤブニッケイ、ナミノキ 他

◆天皇の池～須磨の名水往復

天皇の池は静けさの中に厳かな雰囲気漂う。旧武庫離宮の水源地として川をせき止めて作られた歴史や、この須磨が源氏物語等の舞台であった時代を振り返る。

池の横に掘られたトンネルを見て、水源地を汚さないための知恵に納得した。

須磨の名水の上にある広場まで移動して昼食。堰堤の下には須磨の名水が湧き出ている。出会った地元の方に聞くと毎日汲みに来るとのこと。



◆天皇の池～尾根道

登りに取付くと、テイカカズラの葉が地面を覆って広がり、白い花が落ちているが、咲いている花が見あたらない。巻きつく樹を見つけて這いあがり、高い場所で太陽から栄養を得て成長しないと花が咲かないとのこと。テイカカズラと競うようにイタビカズラが大きな葉を出して樹に這い上がっていた。

カゴノキも多く、樹皮が剥げ落ちて茶色⇒白色⇒灰色の3段階のまだら模様を見せている。

<観察できた植物>

ヤマモモ、ヤマウルシ、カクレミノ、テイカカズラ、イタビカズラ、カゴノキ、ウラジロ 他



◆拇尾山からの尾根道に合流

尾根に登りつくと、これまで歩いてきた谷間と違って植生が一変する。ウバメガシ、ヤマモモ、ヒメユズリハ等の高木が林立する尾根付近を緩やかに下っていく。ヤマモモには年代を感じさせる巨木が多い。ヒメユズリハは若い葉が出て「譲り葉」らしきが見られた。またウバメガシはごつごつとした樹肌が材の硬さを強調していた。

<観察できた植物>

ウバメガシ、ヤマモモ、モチノキ、ヒメユズリハ、ヤブムラサキ、カナメモチ、カクレミノ 他



◆明るい尾根道～須磨離宮公園

明るく開けた尾根道に出ると、ちょうど目の高さにはパイオニア植物と言われるアカメガシワ、カラスザンショウ、ハゼノキ等が競うように出現している。

アカメガシワには、蜜を求めてどの葉にも蟻が寄ってきている。葉に付くダニを食べてくれるので共生関係なのだという。

ヨウシュヤマゴボウは毒々しい実をつける前に、独特の花をつけている。トゲジシャは葉裏に鋭いトゲを持つだけでなく、葉を垂直に向ける特徴がある。

本日のフィナーレが近づくころ、足元にはカクレミノの幼木が、愛嬌のある形の葉で、名残を惜しむように手招いてくれた。



<観察できた植物>

ハゼノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、ヨウシュヤマゴボウ、ヒメコウゾ、コウヤボウキ、トゲジシャ、シャシャンボ、ヤマモモ、ヒメユズリハ、ヤマウルシ 他

無事、須磨離宮公園に到着して今日の観察を全て終了、解散となりました。おつかれ様でした。

【観察会を終えて】

今回のコースは、歩行時間が短い、高低差が小さい、危険箇所が少ない、従って時間的にゆとりがありじっくり観察できる、豊かな自然と地域の歴史に触れることができる、等々が特徴でした。参加者の評判も良く、こんなコースがあったのかという発見の喜びもあったと思います。天候にも恵まれ、大部分が樹林帯で直射日光が遮られて暑さが苦にならず、快適に観察ができました。参加された皆様の協力も得られて、観察会が無事に楽しく実施できたことをスタッフ一同感謝いたします。

記 第6班 東條